アレンH取扱説明書

はじめに

この度は「ゆっくりレンタカー」をご利用いただきありがとうございます。
本書はキャンピングカーアレンHの取扱方法を説明したものです。

キャンピングカーの取扱いは乗用車と異なり、いろいろな機能や機器など、
居住に関わる部分を多く取付けておりますので、ご使用前に必ずお読み
下さい。

また、ボディサイズも乗用車やワゴン車と異なりひと回り大きいサイズ
です。そして重量物などが車体の上部にも設置されていますので運転に
は十分にお気をつけて下さい。

本書は次のお客様の為にも大切に保管下さい。
車両の仕様などの変更により、取扱商品、設備に関して内容が一致しない
場合もございます。
あらかじめご了承下さい。

＜アレンH＞取扱説明書補足

◆バッテリー残量計

・運転席後ろ、窓側にデジタル表示してあります。
サブバッテリーの残量を確認出来ます。

左下（この写真だと12.7Vの所）が11.5V以下になったら使用を控えて充電（走行か外部電源接続）する事をお勧めします。

中央下（この写真だと-0.52Aの所）、
－（マイナス）は電気を使って減っている時、＋（プラス）は電気が増えている時を表します
※充電していてもそれ以上に電気を使っている時は－（マイナス）になる事もあります。

◆インバータースイッチ

インバーターとはバッテリーの12Vの電気を100Vに変換する機器です。

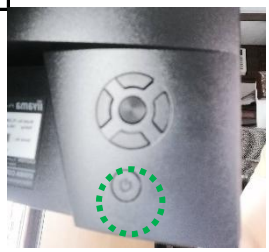
・下駄箱側面のｲﾝﾊﾞｰﾀｰｽｲｯﾁをONにすることにより約1,000W迄の電化製品を外部電源接続せず、車内のコンセントで使用できます。液晶モニターをご利用の際はこちらをONにして下さい。

・外部電源接続時はOFFにして下さい。

◆液晶モニター（fire tvやナビで映しているものをご覧いただけます）

・電源付け方

・ナビをONにします。→インバータースイッチをONにします。（コンセント差し込む）→モニター裏右下の電源をONにします。→切替ボタンで選択



液晶モニター右下の後ろにボタンがあります。
電源:ON/OFF

◆電気ケトル、ドライヤー

・ポータブル電源、インバーターをONにしてご利用頂けます。外部電源接続はインバーターOFFのまま室内コンセントをご利用ください。

（注意！）
・走行中は危険ですので使用はご遠慮ください。

もくじ

■ 安全にご利用になる為に P.04
日常点検
安全確認

■ 鍵／工具／ジャッキ／スペアタイヤ P.07
各種キーの説明
工具／ジャッキ
スペアタイヤ

■ 外装 P.09
各部名称
エントランス
給油方法
バゲッジドア
外部収納庫
外部電源入力コンセント
タイヤ

■ 窓 P.15
アクリル窓

■ 外装オプション P.17
~~サイドオーニング~~

■ サブバッテリー P.19
サブバッテリー
充電方法

■ 内装 P.20
シート
シートベルト
テーブル
ベッド展開
バンクベッド展開
リア二段ベッド
カーテン／シェード
キッチン設備
シンク
スライドテーブル

給水・排水タンク／電動ポンプ
冷蔵庫
カセットコンロ
電源集中スイッチパネル
ヒューズ
照明
コンセント／アクセサリーソケット／ USB ポート
ベンチレーター

■ 内装オプション P.31
バッテリーチャージャー
バッテリー残量計
インバーター
電子レンジ
モニターアーム
ナビサブバッテリー接続／リアモニター配線
12V 専用クーラー
100V 専用クーラー
FF ヒーター
EFDELTA 電源パック
~~トイレ~~

■ メンテナンス P.38
冬季の水道設備のメンテナンス
洗車
コーキング

■ トラブルシューティング P.40
走行時のベース車側のトラブル
事故を起こしてしまったら
破損が軽微の場合
破損が大き目の場合
照明などの電源が全て消えた
冷蔵庫が動かない
マックスファンが動かない
サブバッテリーが上がった

■ 保障 P.43

■ 会社情報 P.44

■ 安全にご利用になる前に

◆ 日常点検

日常点検は道路運送事業法により、運転者に義務付けられています。
付属の車両取扱説明書を見て点検を行い、安全に運行しましょう。

○ タイヤの確認

▪タイヤについて

タイヤはゴム製品なので、走行中の振動や路面から受ける熱などによって劣化します。
劣化が進むとバースト（破裂）を起こす可能性が出てきますが、特に夏は日照りによってアスファルトの温度が上がるため、タイヤの温度も上昇し、バーストの発生率が高くなります。
このようなバーストを防ぐためには、ご自分の車のタイヤの状態をこまめにチェックする習慣を身につけるようにしてください。

▪スリップサインに注意

タイヤの使用限度は、一般的に残り溝（1.6mm 以上）やキズ・亀裂の有無から判断することができます。
サイドウォールなどにヒビが入っているのを見つけたら「危険信号」だと意識してください。
また「スリップサイン」が出ているかどうかを必ずチェックしてください。
これは、タイヤの限界が来たことを伝えるサインのことで、タイヤの溝底に設けられた 1.6mm のゴムの盛り上がり部分のことを指します。
スリップサインは、残り溝 1.6mm という法令（道路運送車輌の保安基準第９条）で定められた最低ラインを示す表示ですから、これが見えてきたら、そのタイヤの使用は控えてください。
できれば、これが見える前に新品タイヤと交換しましょう。
また、小形トラック用タイヤは、高速道路を走行する場合は 2.4mm 以上の残り溝が必要となります。
このようなタイヤを履いている車両は、その使用制限を守ってください。

▪常に適正な空気圧を保つ

空気圧が適正でないと、溝やキズ・亀裂の有無とは関係なくバーストを起こす可能性が高まります。
ゴムは空気を通しますので、タイヤの空気圧は1ヶ月の間に約3～5％低下します。
したがって、空気圧の点検は、最低1ヶ月に1度は行なってください。
車両の指定空気圧は、車両のドア付近に表示されています。不明の場合には、ビルダー（架装メーカー）または販売店にご相談ください。
空気圧を調整するときは、指定空気圧を下回ることのないように、10％を上限として、少し高めに調整してください。
タイヤの空気圧は、走行前の冷えている時に、エアゲージにより点検し、ビルダーの指定空気圧に調整してください。

▪タイヤの変形

長期間同じ場所で保管しておくとタイヤが重みで変形し形にクセが付く事があります。
そのまま高速道路など走られると最悪バーストする危険性が高まりますので、乗らなくても定期的に動かし接地部分を変えるようにしてください。

▪荷物の積みすぎに注意

タイヤが劣化する度合いは、車を使われる方の運転の仕方や荷物の積み方で異なります。
まずは空気圧を適正に保ち、過積載を行なわないなど、日頃の心がけが必要です。
走行中に異常な振動を感じたら直ちに停車し、タイヤをチェックしてください。

▪日本タイヤ協会（JATMA）

少しでも違和感を感じたり劣化の症状が出ていたら適切な対策を施してください。

日本タイヤ協会では、一般乗用車のタイヤの日常チェックポイントとして、ホームページを通じて、次のような呼びかけを行っています。キャンピングカーのタイヤチェックにも必要な指摘がありますので、参考にしてください。

・日本タイヤ協会の日常チェックポイント　　http://www.jatma.or.jp/tenkencheck/

・タイヤの製造年月日の確認方法　　http://www.jatma.or.jp/tekisei/pdf/tyre.pdf

○ オイル・クーラント・ウォッシャー液の確認

オイルの汚れ、クーラントやウォッシャー液の残量を確認します。

◆ 出発前点検

○ 車両に装着してある設備の点検（走行時の脱落を防止する）

サイクルキャリア、ラダー、その他設備等が何らかの理由などで緩んだり、外れたりしていないかを確認します。

○ 積載物の確認及び重量バランスの確認（走行安定性を確保する）

トランク等に積んだ積載物の重量が偏ると車両姿勢が不安定になり、安全運転の妨げになります。動かないようバランス良く積みましょう。

○ エントランスドア、バゲッジドア、スカートの施錠確認（うっかり事故の防止）

各場所にはキーシリンダーが着いています。止め忘れると走行時に開いたり、
暴れたりして事故の原因になります。

○ サブバッテリーの電圧の確認（電源周りの確認）

サブバッテリーの電圧がエンジン始動前で１１V以下になっている場合はエンジンをかけて事前に充電をしてから使用してください。特に１０V以下の場合は後述している方法にて充電を行いましょう。

○ 荷物の積み残しの確認（出発後のトラブルの防止）

車両の周りに積み残しの荷物があると、事故やトラブルの原因になります。
また、外部コンセントケーブルなどがつながっていないか確認しましょう。

◆ エンジン始動時

○ メーター上の警告等の確認

車体の不具合がないかどうか確認します。

○ エンジンの異音の確認

エンジンの不具合がないかどうかを確認します。

○ サブバッテリーの電圧の確認

エンジン始動時に電圧が上がっているかどうかを確認します。

○ 燃料の残量確認

十分な燃料が入っているかを確認します。

◆ 安全の確認

○ 車体のサイズと見切りについて

走行時、車両の上部、左右、後部をよく見ながら運転をしましょう。
特に高さ制限のある場所、見通しのわるい交差点、細い道路などでの軒先や標識の出っ張り、立ち木の枝などで車両を損傷する場合があります。
良かれと思って道を譲ったときに、路肩の枝で車を壊すこともあります。

○ 車体の下へのもぐりこみの注意

小さいお子様のいるご家庭では、車両の床下へのもぐりこみに注意しましょう。
何らかの理由で車両の下へもぐりこむことで重大な事故になる可能性があります。

○ 砂地やぬかるみでの走行について

車両重量が重いので深みにはまる可能性があります。
車重で脱出が難しくなる場合がありますので、そのような場所はできるだけ避けるようにしてください。

○ 積雪路や凍結路での走行について

ゆとりある運転を心がけて、急ハンドル、急ブレーキ、急加速などは行わないようにしましょう。
特に凍結路の急な下りなどでは、タイヤがスリップして自重ですべり落下する可能性があります。
事前に道を確認して十分スピードを落として走行してください。
ＡＢＳ，ＡＳＲなどを過信しないようご注意下さい。
また、スタッドレスタイヤだけでなくチェーンも携帯して、万が一の場合に備えましょう。
エンジンブレーキ、排気ブレーキ、フットブレーキを状況に応じて使い分けて安全に運転をしましょう。

○ 強風時の走行について

キャンピングカーは車高が高いため、横風などにあおられる場合があります。
道路などに設置している吹流しや煙突の煙、立ち木の揺れ方など、自然の動きをよく見ながら安全運転を心がけましょう。
トンネルの出口や暴風壁の切れ目などで風によりハンドルを取られる場合がありますので、十分注意して走行してください。
もし車体がバランスを崩したときは、フットブレーキをかけずに、エンジンブレーキや惰性で徐々に減速していきましょう。
無理に強くブレーキをかけると横転する場合があります。

○ 停車、駐車時の確認ごと

車両を停車、駐車する場合は必ずギアをＰ（パーキング）にしてパーキングブレーキをしっかりかけてください。
また、斜面に停車、駐車する場合は車輪に輪留めをかけるようにしましょう。
パーキングブレーキが十分にかかっていないと車両が動いて大きな事故になる場合があります。

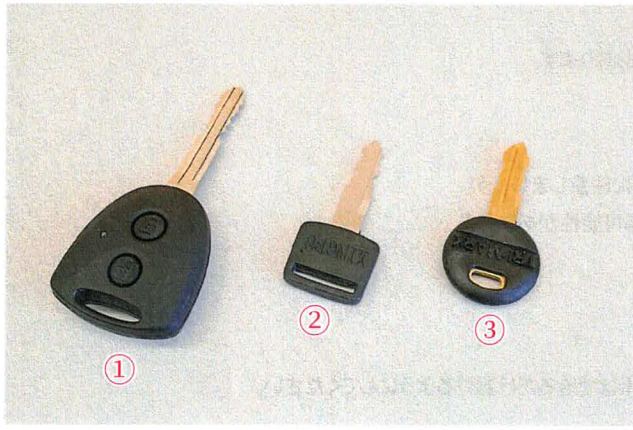
○ お車から離れる時

停車、駐車などで車から離れる時は必ず施錠をしましょう。
キャンピングカーは生活道具や高価な部品がたくさんついており、車体だけではなく、物品類の盗難の可能性もあります。
また、普通車と異なり、車体が大きく狭い場所では威圧感があるため、周りの人に迷惑がかからない駐車を心がけるようにしましょう。

■ 鍵／工具／ジャッキ／スペアタイヤ

◆ 各種キーの説明

アミティで使う鍵は以下の 3 種類です。



①メインキー

ベース車、給油時に使用する鍵

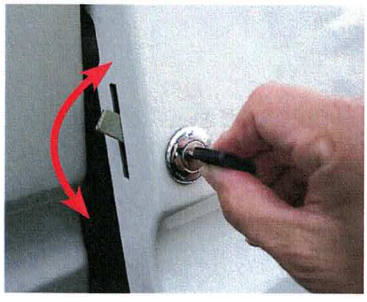
②スカート・バゲッジドア用キー

バゲッジドアやスカートの開け閉めを行う角型の鍵

③エントランス用キー

エントランスの開け閉めを行う丸型の鍵

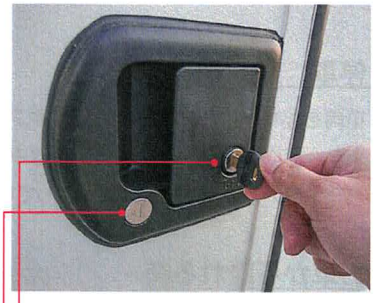
②スカート・バゲッジドア用キー



キーを回すとロックプレートが回ります。

スカートのハッチを開けた場合は必ずドアキャッチで抑えて下さい。

③エントランス用キー



二重ロックになってます。
右：ドアノブのロック
左：デッドボルト（かんぬき）ロック

◆ 工具／ジャッキ

タイヤ交換時等に使う工具が備え付けられています。

使用方法については車両マニュアルをご確認下さい。

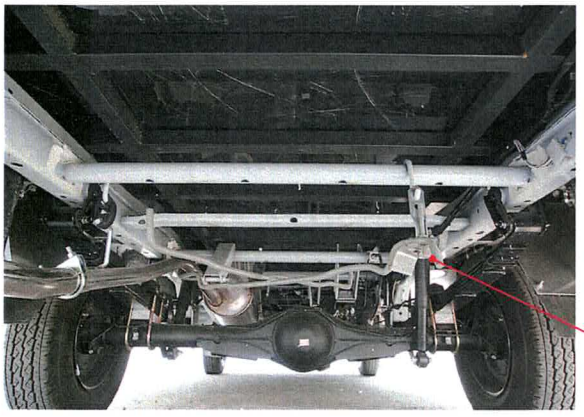
○ 設置場所

工具はダッシュボードの中

ジャッキはスペアタイヤの中

◆ スペアタイヤ

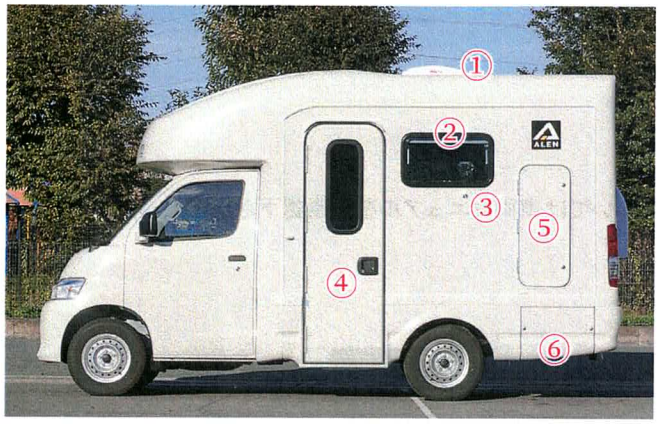
車両後方下部にスペアタイヤが搭載されています。

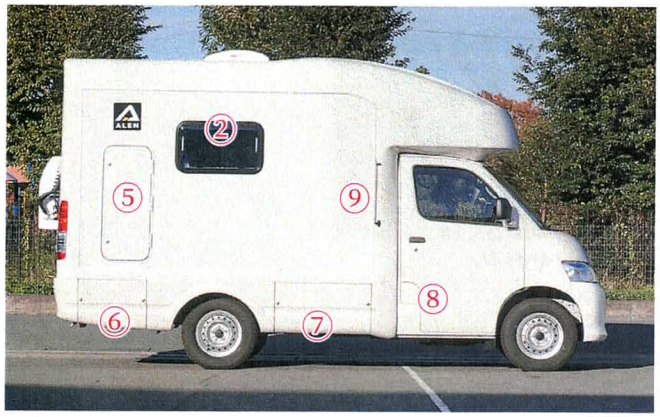


スペアタイヤを降ろす場合は、このボルトを緩めます。
交換方法は車両マニュアルをご確認下さい。

■ 外装

◆ 各部名称





① ベンチレーター

② アクリル窓

③ シャワーフック

④ エントランスドア

⑤ バゲッジドア

⑥ 外部収納庫ハッチ

⑦ サブバッテリーハッチ

⑧ 給油タンクハッチ

⑨ ラジオアンテナ

⑩ ハイマウントストップランプ

⑪ バックアイカメラ

⑫ リアコンビネーションランプ

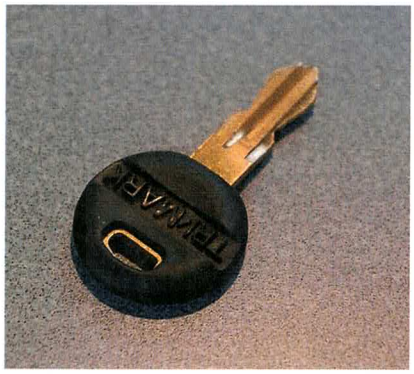
⑬ 外部電源入力コンセント

⑭ 反射板

◆ エントランス

○ 外側施錠方法

エントランスのドアは二重ロックになってます。

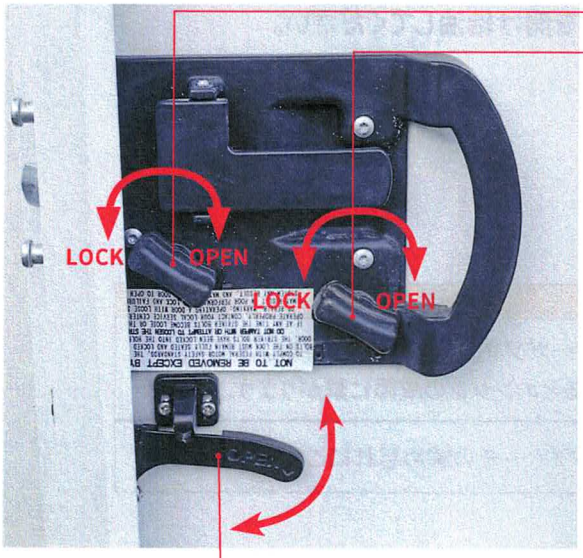


使用する鍵は丸い金色のタイプです。

ドアノブ用鍵穴

デッドボルト用鍵穴

○ 内側施錠方法



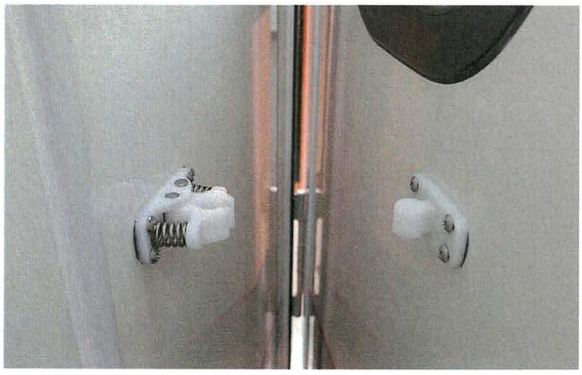
ドアノブ用ロックレバー

デッドボルト用ロックレバー

網戸用ロックレバー

網戸のみを閉める事も可能です

○ エントランスドア固定方法



扉を固定する場合、エントランスドアキャッチがしっかりはまるよう押し込んで下さい。

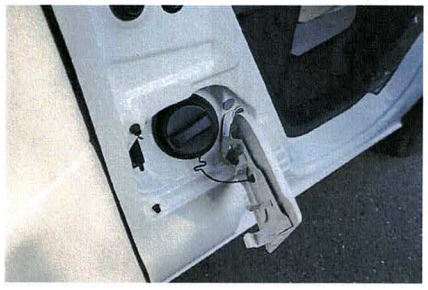
注意！

強風時にはエントランスを閉めて下さい。
ドアキャッチで固定していても外れる可能性があります。

※パーツが破損した場合は AtoZ パーツにて購入可能です。

◆給油方法

① 運転席横の黄色いレバーを下げる。



② 給油ハッチが開きます。

③ 給油キャップを開け給油してください。

注意！
燃料は「レギュラーガソリン」を入れて下さい。 他の燃料を入れるとエンジンの故障に繋がります。
給油後はキャップやハッチの締め忘れにご注意下さい。

◆ バゲッジドア

車両後部左右のバゲッジドアより荷物の出し入れが可能です。

ポイント

鍵が固く回しにくい時は扉を手で押しながら回してみて下さい。

注意！

走行前に鍵が閉まっているか確認して下さい。

◆ 外部収納庫

車両後部左右のスカート内に搭載されています。

レバーを回すと扉が開きます。

ポイント

匂う物や汚れ物などをしまうのに便利です。

◆外部電源入力コンセント

100V 外部電源を接続する事で車内に備え付けられている 100V の電化製品やコンセントが使用可能となります。
オプションのバッテリーチャージャーを装備している場合は自動的にサブバッテリーへの充電も行えます。

外部電源ケーブル

ケーブル先端に矢印が書かれている方を上にして
接続して下さい。
外す時は左に回して引き抜いて下さい。

◆タイヤ

前：175/80R14 99/98N LT
後：175/80R14 99/98N LT

ポイント
タイヤは前後ローテーション可能です。

○ タイヤの点検について

タイヤはゴム製品なので熱や圧力によって日々劣化していきます。
劣化が進むとバーストする危険性が高まります。
定期的な点検を必ず行って下さい。
点検についての詳細は P.04 の『タイヤの確認』を参照してください。

タイヤ空気圧 kPa (kgf/cm²)		
タイヤサイズ		175/80R14 99/98 N LT
前輪	軽積	220 (2.2)
	定積	220 (2.2)
後輪	軽積	260 (2.6)
	定積	450 (4.5)
42661-BZB40		SB40
SRS I		

運転席のドアのボディ側に空気圧の指定が貼られています。
一か月に一回は点検を行って下さい。

軽積は荷物を積んでいない状態、定積は荷物や人を最大量積んでいる状態です。
キャンピングカーはそのままでも重い重量物を載せている状態なので指定範囲内で空気圧は高めにしておきましょう。

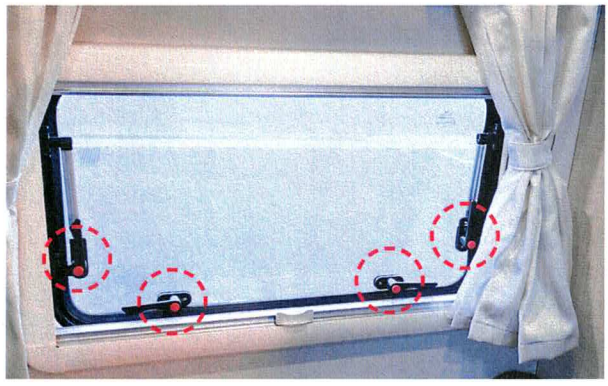
注意！
走行中異常な振動を感じたら直ちに停車し、タイヤをチェックして下さい。
少しでも違和感を感じたり劣化の症状が出ていたら適切な対策を施してください。

■ 窓

◆ アクリル窓

強度と断熱性に優れたアクリル二重窓を採用

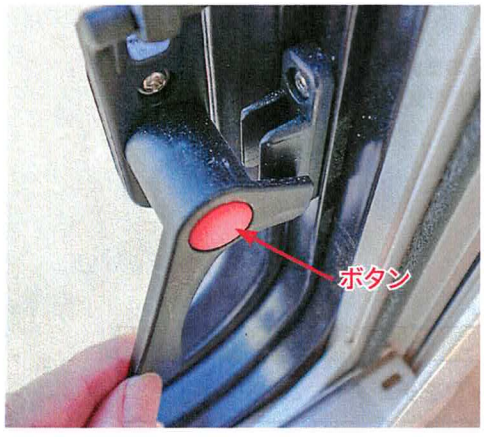
○ 窓の開閉方法



窓を空けるにはまず全てのレバーを回して開錠します。
赤いボタンを押して(ボタンがない製品もあります) レバーを回して下さい。

窓を空けるとアームから「カチッ」と音が鳴り、ある角度で固定できます。
製品によって1～数段階で固定ができます。

閉じる場合は一度奥まで開いて下さい。
アームのストッパーが解除され閉じる事が可能です。



注意！
窓を開閉する時は必ず全てのロックレバーの解除を確認し行ってください。 どこか一か所でもロックされた状態で動かすと破損します。
開けた状態から無理に閉めないで下さい。
限界以上に開けないで下さい。アームが破損する可能性があります。
窓を空けた状態でバゲッジドアを開くと接触する場合があります。

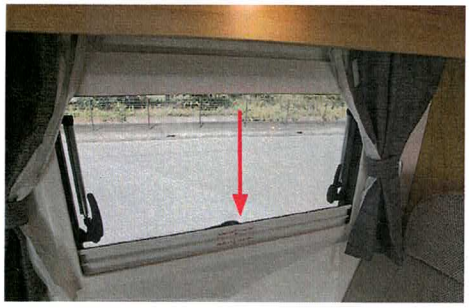
警告！
走行中に窓を開けていると風圧で開く可能性があります。 大変危険ですので絶対になさらないで下さい。

○ 完全ロック と 換気ロック

ストッパーには《コの字》状に板が付いており、手前にＬ字のレバー先を引っかけると完全に閉じた《完全ロック》状態になります。
溝にレバー先を入れ込むと隙間を空けた状態で固定できる《換気ロック》状態にできます。
走行時や少し外気を入れたい場合に有効です。

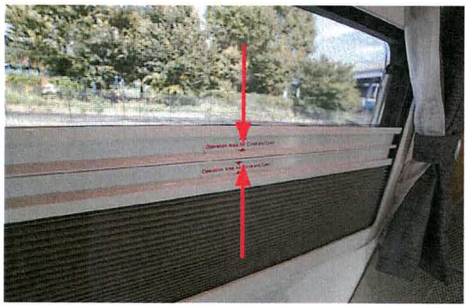
○ 網戸、シェードについて

コンビロールタイプの網戸とシェードが内蔵されています。



窓枠の上部に網戸が格納されています。

窓枠の下部にシェードが格納されています。



それぞれを連結させると自由な位置で固定できます。

■ サブバッテリー

◆ サブバッテリー

サブバッテリーとは、車内にある電化製品を使うためのバッテリーを指します。
12V、105A の鉛ディープサイクルバッテリーを一基搭載しています。
使用する機器の消費電力を考え、バッテリーマネージメントをうまく行いながらご使用ください。
ある程度、下の計算式から求める事ができます。

※画像はツインバッテリー搭載時

≪サブバッテリー 使用可能時間 目安≫

家電製品	消費電力（W）	計算式	使用可能時間
ノートパソコン	100W	12V × 105A × 80% ÷ 100W	10.1 時間
液晶テレビ	150W	12V × 105A × 80% ÷ 150W	6.7 時間
電子レンジ	500W	12V × 105A × 80% ÷ 500W	2.0 時間
電気カーペット	800W	12V × 105A × 80% ÷ 800W	1.2 時間
電気ポット	950W	12V × 105A × 80% ÷ 950W	1.1 時間

◆ 充電方法

① 走行充電

基本的には走行中に車のオルタネーターで発電された電気で充電されます。
目安として 5 時間走行で 80%の充電となります。
その後はゆっくりとした充電に切り替わります。

② 外部充電

オプションのバッテリーチャージャーを搭載すると外部の 100V 電源から充電を行えます。
目安として 30A の充電器で 80%の充電まで 6 ～ 7 時間程度かかります。
その後はゆっくりとしたフロート充電に切り替わります。

③ 太陽光充電

オプションのソーラーパネル搭載すると日中晴れた日は常に充電されます。

■ 内装

◆ シート

セカンドシートとサードシートはマルチアクションタイプの可動シートです。
用途に合わせ様々に変形できます。
サイドにはベッド拡張用の補助マットを搭載。

◀ リビングモード

セカンドシートとサードシートの対面タイプです。
セカンドシートは二点式シートベルト、サードシートは二点式と三点式のシートベルトとなります。

ベッドモード ▶

フロアベッド部：長さ 1900 ㎜×幅 1230 ㎜
サイドシート部：長さ 1570 ㎜×幅 530 ㎜
大人２人、子供１人が寝る事ができます。

○ レバー類の説明

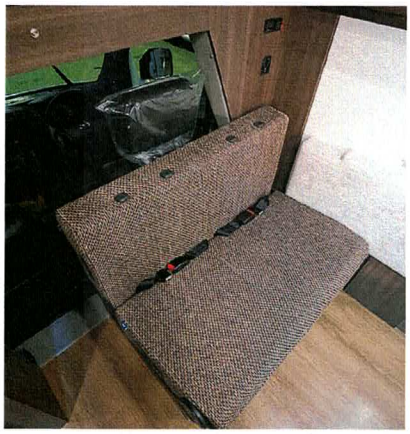
シート横のレバーを押すとシートの角度調整ができます。

左レバーをねじるとシートの前後の調整ができます。
右レバーを左右に倒すとシート左右の位置調整ができます。

ヘッドレスト引き抜くときは横のボタンを押しながら抜きます。

◆ シートベルト

セカンドシートは二点式シートベルト、サードシートは三点式のシートベルトとなります。

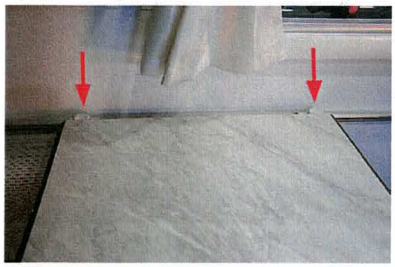


警告 !!

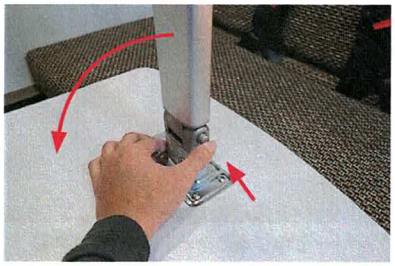
セカンドシートは前向き乗車には対応しておりません。
また、シートをフラットにした状態でのご乗車は大変危険ですのでお止め下さい。

◆ テーブル

○ テーブルの取り外し方



①左右のフックのロックを解除するとテーブルがレールから外れます。
上からボタンを押すと解除。
下からボタンを押し上げるとロック。



②脚の付け根のボタンを押すと回転ロックが外れ９０度折りたためます。

※テーブルの高さが水平でない場合は足元のつまみを緩めて調整して下さい。

警告 !!

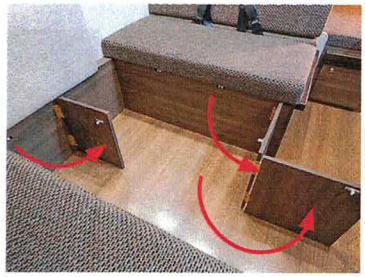
危険ですのでテーブルの上には絶対に乗らないで下さい。

◆ ベッド展開

○ フロアベッド展開手順

①

②ベッドマット受けの板


③受け板を写真の様に直角に開く

④背もたれマットを前側に置く

⑤一番後ろのマットからシートベルトを抜き壁際にまとめる。上のバックルから外して下に落としても可

⑥補助マットを通路側にはめ込む

⑦

⑧ヘッドレストを外す

⑨シートを前後反転

①シートを左前方にスライド

②背もたれを倒す

③受け板が穴の内側にある事を確認

④補助マットをはめ込む

⑤完成

◆ バンクベッド展開

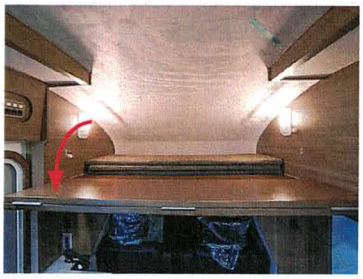
アレンはフラップ式のバンクベッドを装備しています。
大人二人就寝可能な大容量スペースを確保しています。

①バンクベッド受けの木を用意

②エントランス側で橋渡しさせる

③左右にあるスライド錠を解除

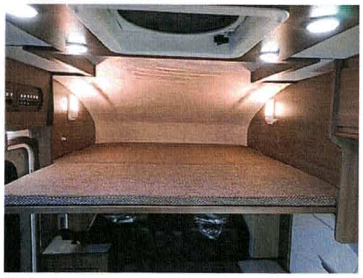
④


⑤フラップを倒す

⑥もう一段階フラップを広げる

⑦マットを敷く

⑧手前の方が大きくて若干短いマット


⑨完成

○ 昇り降りについて

バンクベッドに昇り降りする時はキッチン
カウンターを足場にすると良いでしょう。

注意！
バンクベッドの耐荷重は 100kg までとなってます。
一点に大きな力が加わると破損する可能性があります。 昇り降りはゆっくり行ってください。

◆ リアニ段ベッド

車両後部には寸法上は子供用としての常設二段ベッドが備え付けられています。
就寝スペースや荷物置き場として使えます。

注意！

上段ベッドの耐荷重は 80kg、下段ベッドの耐荷重は 100kg までとなってます。
一部分にだけ負荷がかかると支えが破損しマットが落下する可能性があります。

ベッドマットは取り外し可能になっており、全て取り外すと大容量の収納庫として使う事ができます。
また、外部バゲッジドアが付いており外からアクセスする事も可能です。

◆ カーテン／シェード

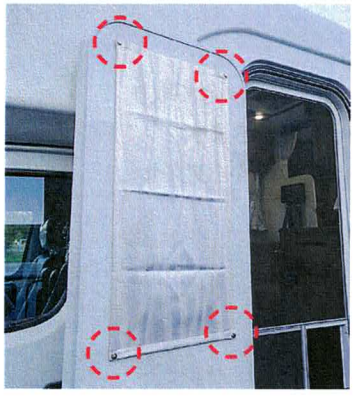
○ カーテン

窓にはカーテンとレースカーテンが備え付けられています。

二段ベッドとの仕切り用のカーテン

○ シェード

エントランス用と運転席仕切り用のシェードカーテンが付属されています。



ホックで固定します。

◆ キッチン設備

◆ シンク

使用する場合は集中スイッチの「水道(ポンプ)をONにして下さい。
レバーを捻ると水が出るようになります。

蛇口を外まで引き出してシャワーフックに固定する事も可能です。

◆ スライドテーブル(初期モデルのみ)

キッチンテーブルに横にはスライド式の拡張テーブルが収納されています。

※バージョンによっては搭載されないモデルもございます。

◆ 給水・排水タンク/電動ポンプ

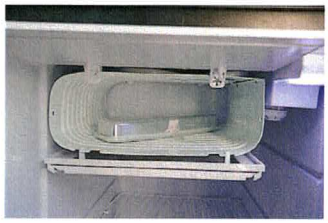
給水、排水タンクをキッチン下部に搭載。
排水ホース、電動ポンプをそれぞれのタンクに入れてご使用下さい。

注意!
走行中動かないようタンクをゴムバンドで必ず固定して下さい。
給水タンクが空の状態でポンプを作動させ続けないで下さい。 故障の原因となります。
冬季はタンクを空にし、給水栓内の水を抜いて下さい。 凍結による故障の原因となります。 詳しい方法は後述の**「メンテナンス」**の項を参照して下さい。

◆ 冷蔵庫

12V で稼働する内容量 49L の冷蔵庫。
庫内上部には簡易冷凍庫付き。
使用する場合は集中スイッチパネルの「冷蔵庫」を ON にして下さい。

注意！
ダイヤルメモリが最大の状態（コンプレ ッサー連続運転）での使用はサブバッテリーの上がりの原因となります。



ポイント
走行中にダイヤルを最大にしておき駐車時に弱にしておくとサブバッテリーの使用を抑えながら冷蔵庫内の温度を下げておく事ができます。
ダイヤルが弱でも冷凍庫に保冷剤を入れておくと冷蔵庫内の温度を保つ事ができます。

◆ カセットコンロ

カセットコンロが付属します。
市販のガスボンベを使用して下さい。

注意！
使用しない場合はボンベを取り外して下さい。
走行中の使用はご遠慮下さい。
ご使用時は必ず換気をして下さい。

◆ 電源集中スイッチパネル

電源集中スイッチはエントランス上部にあります。
車内の電装品は 12V 製品です。(一部例外もございます)
それぞれに対応した名前がスイッチの上に書かれています。

注意！

電装品を使用しない時はスイッチを OFF にして下さい。
サブバッテリーが上がる原因になります。

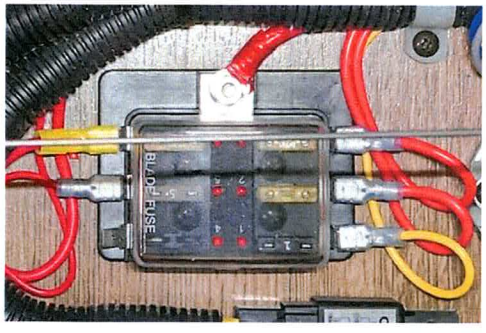
◆ ヒューズ

シールが貼られている部分のカバーを外すとスイッチごとのヒューズが確認できます。

ヒューズ切れた場合、スイッチを ON にすると
LED が赤く光ります。
その場合はヒューズを交換して下さい。

各ヒューズです。
交換する場合は書かれている数字(アンペア数)
と同じ物を選んで下さい。

※電装品本体にもヒューズが付いている場合もあります。



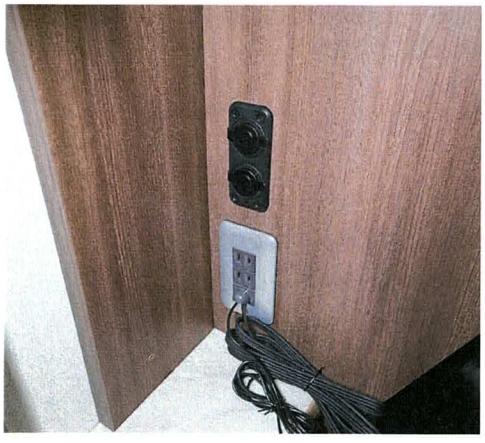
集中スイッチパネル自体のヒューズボックスです。
メイン1、メイン2が左右のスイッチパネルに対応しています。

◆照明

電源集中スイッチに書かれている照明を ON にして下さい。
照明本体にもスイッチが付いている場合があります。
リアベッドやバンクベッドでは個別に ON,OFF できます。

◆コンセント／アクセサリーソケット／ USB ポート

様々な機器の電源を取る事ができます。



DC12V アクセサリーソケット／ USB ポート

・使用する場合は集中スイッチ「電源1」を ON にして下さい。
・DC12V と DC5V の機器を使用できます。
　合わせて 10A 以内でお使い下さい。

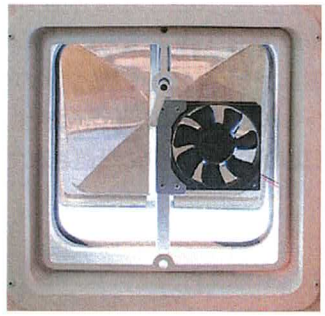
AC100V コンセント

・外部電源を繋げるとコンセントが使えるようになります。
・インバーターの電源を ON にするとサブバッテリーから電力を供給できるようになります。

◆ ベンチレーター

○ 標準ファン

車内の空気を排出するミニファンを搭載。

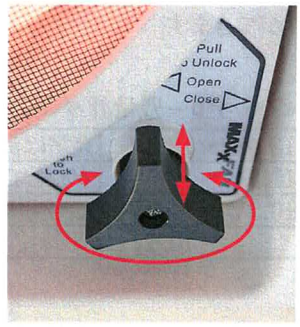


注意！

天候が悪い時はハッチを閉めてください。

○ マックスファン（オプション）

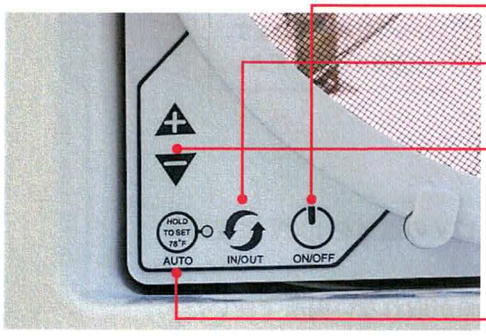
使用する時は集中スイッチの「ルーフベント」を ON にしてご使用下さい。



外蓋開閉ダイヤル：
・ダイヤルを上げるとロック
・ダイヤルを下げると解除
・時計回りで蓋を閉じる
・反時計回りで蓋を開く

注意！

ダイヤルがロック状態で無理に回さないで下さい。破損の原因になります。



「ON/OFF」ボタン：ファンを作動・停止させます。

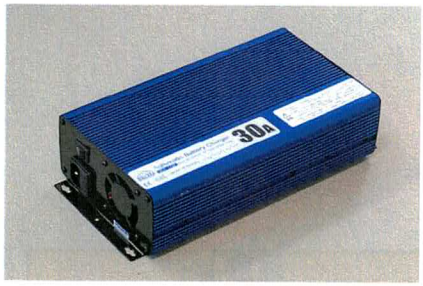
「IN/OUT」ボタン：
IN（吸気）/ OUT（排気）モードの選択ができます。

「＋」「－」ボタン：風力の調整ができます。

「AUTO」ボタン：
一度押すことで 78° F(25.6° C) にセットされます。
温度を下げたい時には -（マイナス）のボタンを押すことでファンの回転数が増し設定温度までファンが回転し続けます。
その後、設定温度になったら停止します。
温度を上げたい場合は＋（プラス）のボタンで同様に設定できます。

■ 内装オプション

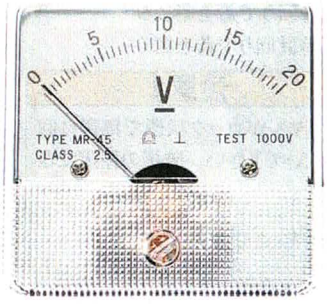
◆ バッテリーチャージャー



バッテリーチャージャーとは外部 100V をケーブルでつないだ際に、100V から 12V に変換しサブバッテリーに充電する装置です。
室内製品のほとんどが 12V ですので 100V 接続時には室内製品をサブバッテリーの消耗を気にせずに使用できます。
助手席裏のピラーの中に設置されていて外からは見えません。

◆ バッテリー残量計

外部充電ケーブルを接続していない状態で車内の電化製品をご利用の際は、必ず事前にバッテリー残量計を確認しましょう。バッテリー残量計を確認することで、室内の電気を使うためのサブバッテリーが突然使えなくなることを避けることができます。



≪バッテリー残量計 チェック基準≫

12.6V ～ 12.8V	充電は満タンです。
11.5V ～ 12.5V	安心してご利用いただけます。
10.5V ～ 11.5V	ご使用を控えて充電しましょう。
～ 10.5V	即時使用をやめて充電しましょう。

注意！

サブバッテリーを上げてしまうと充電できなくなる可能性があります。
その場合は P32 の「トラブルシューティング」の項をご確認ください。

◆ インバーター

インバーターとはバッテリーの 12V の電気を 100V に変換する機器の事です。
家庭で使う電化製品を外部電源が取れない場所で使いたい場合はインバーターが必要となります。
使い方については取り扱い説明書をご確認ください。

注意！

機器が動かない場合、波形が合っていない場合があります。
モデルによって「矩形波」「疑似正弦波」「正弦波」に分かれ、精密機器を使う場合は「正弦波」タイプでないと動かない可能性があります。

◆ 電子レンジ

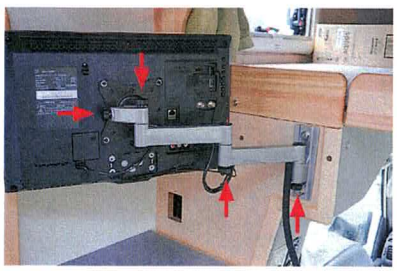
100V で作動します。使用する場合は外部電源を繋いで下さい。
バッテリーで稼働させるにはインバーターの電源を ON にして下さい。

注意！
走行中は使用しないで下さい。
インバーターでのご使用は大電力を消費しますのでバッテリー上がりに気を付けて下さい。

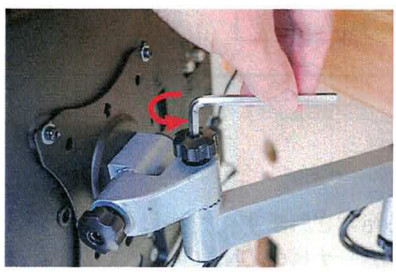
◆ モニターアーム

モニターアームを使うとテレビを好きな角度で固定できます。

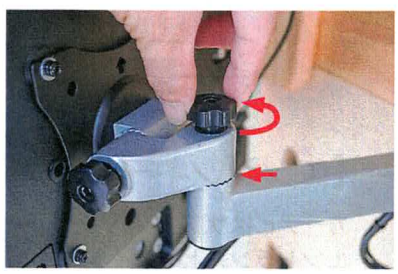
○ 調整方法



①アームには調整用のノブが 4 つ付いてます。



②ノブを緩めるにはまず付属の六角レンチで緩めます。



③アームのパーツ同士はギザギザの噛み合わせで固定されています。
調整する時はフリーに動く程度にノブを緩めてください。

注意！
中途半端に締めていると車の振動でノブが段々緩んでくる事があります。 締めるときは必ず六角レンチでしっかり締めて下さい。 緩んだ状態で暫く走ってしまうとギザギザの山を舐めてしまう可能性があります。

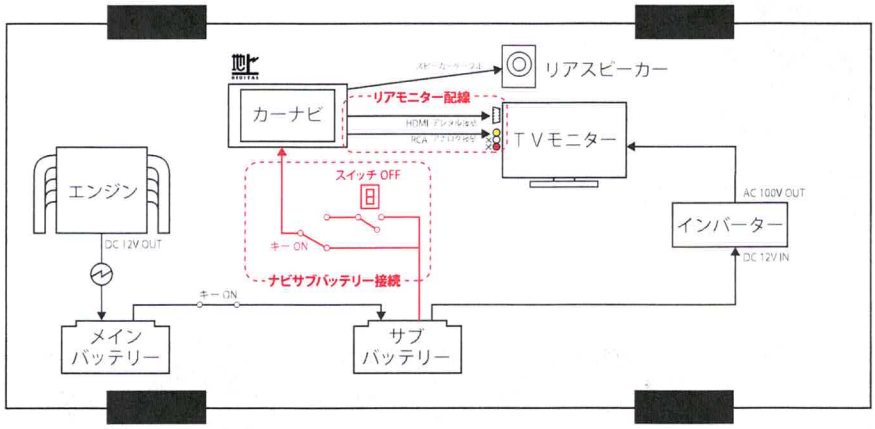
◆ ナビサブバッテリー接続／リアモニター配線

『ナビサブバッテリー接続』とは、カーナビの電源をサブバッテリー経由で取り、車の電源を切っていても使えるようにする配線を組む事を言います。
カーナビの地デジ放送やマルチメディア機能をダイネット側でも使いたいという方にオススメです。
『リアモニター配線』とは、カーナビ側の出力をテレビやステレオスピーカーから流す為の配線の事を言います。

スイッチパネルの「ナビ」を ON にするとナビが起動します。
テレビの電源を入れるとカーナビ側の出力映像が流れます。

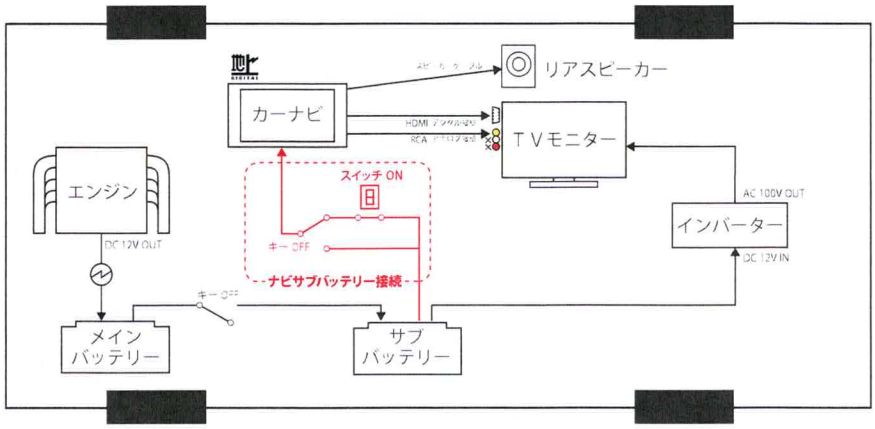
【エンジンキー ON 時】

カーナビはサブバッテリー（≒メインバッテリー）から給電されます。



【エンジンキー OFF 時】

カーナビはサブバッテリーのみから給電されます。
エントランス上のスイッチパネルでカーナビの ON、OFF をコントロールできます。



◆ 12V 専用クーラー

KME 製キャンピングカー用の 12V 直流インバータークーラーです。
サブバッテリーの電力で稼働します。

室内機

室外機

○ 操作方法

集中スイッチパネルの冷房を ON にします。

本体に通電されると赤いインジケーターが点灯します。
その後、青丸の電源ボタンを押してください。
温度／風速ボタンと◀▶ボタンで調整できます。

付属のリモコンでもコントロール可能です。

ポイント
電源を OFF にしてもしばらく室外機が稼働しています。 動作が停止したのを確認してスイッチパネルの冷房スイッチを OFF にして下さい。
サブバッテリーで駆動させる場合は予め車のエアコンで車内温度を下げておくとバッテリーの使用量を抑えられます。
車を日陰、難しいならば室外機が日陰になるように向けると若干冷房効率が良くなります。

ブレーカー

○ 外部電源を繋げた場合

外部電源を繋げた場合もバッテリーから電力は供給されています。手動で切り替える必要はありません。
この時、サブバッテリーが出力している分だけバッテリーチャージャーから充電され続けます。
これは過充電防止の為の『強制フロート機能』と呼ばれます。
また、気温が高い場合は電力量も多くなるのでチャージャーのファンがうるさくなる場合もありますが故障ではございません。

※その他のご使用方法や不具合については付属の取扱い説明書をご覧下さい。

注意！

クーラーをしばらく使わない場合はブレーカを切っておく事をおすすめします。
使う時は ON にしてください。

◆ 稼働時間の目安

◇条件
- 当社指定のイナダ製バッテリー 1 個搭載
- 天気の良い真夏日
- 室温設定 25°

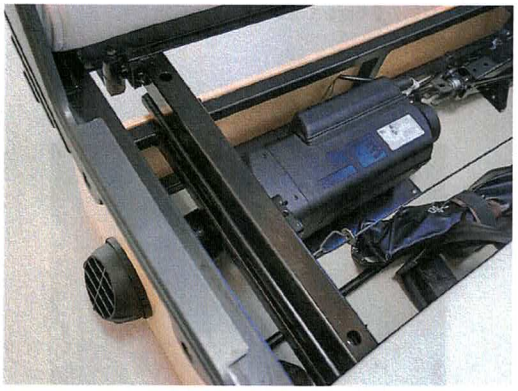
◇想定稼働時間：
1 時間強～ 1 時間半程度
※条件や設定で結果は大きく異なります

◆100V 専用クーラー

アイリスオーヤマ製の 100V 専用クーラー。
外部 100V 電源を車体と接続すると使用可能。
ご使用方法については付属の取扱い説明書をご覧下さい。

ポイント
オプションの「EFDELTA 電源パック」を設定している車両はポータブル電源から給電する事も可能です。

◆FF ヒーター



エバスペヒャー製のエアヒーター「エアトロニック」を採用。
集中スイッチとは連動していません。
使用方法については付属の取扱い説明書をご覧下さい。

注意！
長時間使用しないと燃料が詰まる場合があります。 一か月に一度は作動させて下さい。

ポイント
エンジンを切っても使えるので騒音の心配がない。
消費電力が少なくバッテリー上がりの心配が少ない。
燃費が極めて良く、6 時間運転で 1L の消費。
燃料は車両の燃料タンクから直接取り出しているので燃料切れになる心配も低い。
排ガスを車外に出すので空気が汚れない。

◆ EFDELTA 電源パック

○ EFDELTA 製ポータブルリチウムイオンバッテリー

これ一台で様々な電化製品を動かす事が可能な大容量ポータブルリチウムイオンバッテリー。
詳しいご使用方法については付属の取扱説明書をご確認下さい。

○ コンセント、ケーブル類

コンセント類

① 給電用 100V 入力コンセント
② 100V コンセント
③ 12V ソケット

④ 外部 100V 電源用ケーブル
⑤ 充電用 100V ケーブル
⑥ 充電用 12V ケーブル

ケーブル類

○ 給電方法

EFDELTA から車両へ給電する場合は EFDELTA と①のコンセントを④のケーブルで接続します。

注意！

④の外部 100V 電源用ケーブルは車に 1 本しか搭載されていませんので、外部電源から車両に供給するか EFDELTA から供給するか選ぶ形となります。
仮にもう一本用意して両方繋いだとしても外部電源側が有効となります。

○ 充電方法

EFDELTA を 100V で充電する場合

・外部電源と車両外の外部入力用コンセントを④のケーブルで繋ぐ。
・EFDELTA と②のコンセントを⑤のケーブルで接続。

注意！

オプションのインバーターを設置したとしても②のコンセントには電力は供給されません。あくまで「外部電源専用」のコンセントとなります。

EFDELTA を 12V で充電する場合

・集中スイッチパネルの「電源1」を ON にする。
・EFDELTA と③のソケットを⑥のケーブルで接続。

注意！

鉛蓄電池のサブバッテリーから充電されます。
走行充電方式となります。充電能力は弱めです。

■ メンテナンス

◆ 冬季の水道設備のメンテナンス

給水栓の中の水が凍結すると膨張して部品が破損する可能性があります。
水漏れの原因に繋がるので、凍結の可能性がある場合は中に残った水を必ず抜いてください。

○ 手順

①ポンプと水栓に通電させないよう水道の電源スイッチをOFF にする。

②ポンプをホースから外し中に残った水を排出させる。

③水栓レバーを開ける。

④シャワーヘッドの流水モードを「シャワー」にして中の水をできるだけ排出させる。

⑤シャワーホースを全部引き出してシャワーヘッドの穴を下に向け、残っている水を排出させる。

⑥排出したら、シャワーホースとポンプを元に戻す。

※ご注意：シャワーヘッドの流水モードを「シャワー」にキープしてください。

◆洗車

状態維持の為、日常的に洗車をお勧めします。
ボディーはＦＲＰ製のため、自動車用のワックスや水垢落としなどがそのまま使えます。
長期間直射同じ位置で日光に常時さらしていると、ＦＲＰが焼けて色むらが出ますので、向きを変える、屋根やカバーをつけるなどの対策をお勧めします。
ネットショップ【AtoZ パーツ】　　ではキャンピングカーに適した洗剤類を販売しております。
ぜひこの機会にお買い求め下さい。

キャンピングカー専用洗剤　カムシリーズ

AtoZ PARTS

◆コーキング

シェルはいくつかのパネルを組み合わせて出来ています。
コーキングとはパネルの隙間に充填するゴムパッキンのようなものです。
雨水の侵入を防いだり走行時の振動を吸収したりする役目を担ってます。
しかし長く使うとで劣化がおこり、コーキングが痩せて隙間が出来たり硬化してヒビが入り始めると雨漏りの原因となります。
定期的な点検が必要ですが、AtoZ では２年ごとの車検時にコーキング処理をお勧めしています。是非お申し出下さい。

Sikaflex-251(シーカフレックス)

お客様自身で行う場合は AtoZ パーツに弊社が使用している
コーキング剤がありますのでこれをお求め下さい。

■ トラブルシューティング

◎ 万一不具合等が発生した場合は、ご購入いただいた店舗までご連絡ください。

※ 中古車販売店、個人売買等でご購入のお客様は、ご購入された販売店又は修理工場を通してのみの対応とさせていただきます。

◆ 走行時のベース車側のトラブル

走行については、ベース車の取扱説明書のトラブルシューティングをご覧ください。
その時に担当営業マン、最寄りの販売店に連絡を入れるようにしましょう。
点検整備などで販売店を訪問した際に、出先や日祭日、深夜のトラブルについてどのように対処をしたらよいか、事前に聞いておくと便利です。

◆ 事故が起こしてしまったら

人命救助、警察や救急等の最初の連絡などを最優先に行ってください。
車両については納車時に立ち会った担当営業マン及び一番近い地区の販売店に連絡をとるようにします。
名前、連絡先、現場の位置、最寄りの警察、車両の状態、走行できるか否か、登録ナンバー、車体番号、保険会社など細かい情報をお伝えください。
また、ご加入している保険会社にも上記内容を必ず連絡するようにしましょう。

◆ 破損が軽微の場合

バック中、何かにぶつけてバンパーをこすった、割れた…などの軽微な事故の場合の対処方法です。
ボディーやバンパーなどは、ＦＲＰ製なので錆びることはありませんので、出先から帰ってからの修理も可能です。
自損事故での保険を使う場合は、必ず現場の写真と損傷箇所の写真を撮りましょう。日時が入る画像などがいいでしょう。
破損したFRPの破片等は出来る限り回収しておいてください。修理の際にそれらを利用して修復を行います。

◆ 破損が中規模の場合

バンパーなど破損したFRPの破片が車体から脱落してしまった場合、その破片は持ち帰っていただくと大変ありがたいです。それを元に復元する為、破損部分がないと形がいびつになり、元に戻らなくなる可能性があります。

◆ 照明などの電源が全て消えた

これはバッテリーの完全放電が考えられます。まず、電圧を確認してください。
電圧が下がっている状態でそのままエンジンをかけたり、外部コンセントをつないで充電器を作動して充電をすると、バッテリーが発熱をしたり、破損する場合があります。
確認できるバッテリー電圧が10V以下になっていませんでしょうか。
（放電の状態によってはほとんど電圧が出ない場合もあります。）

○ 対処の方法

①ソーラーパネルのついている車両の場合は、日中であればしばらくソーラー充電しているかどうか様子を見ます。電圧が上がってくれば、そのままエンジンをかけて走り出せます。

②外部電源をつないで充電器で充電をする。
この場合、完全放電した場合は充電器が反応しない場合があります。
その場合はこの説明書の最後（11）に対処方法を記載しました。

③バッテリー電圧が完全に下がってしまった場合
この説明書の最後に記した対処方法では十分充電が出来ない場合の対応方法です。
ソーラー発電がない場合や、バッテリーの電圧が下がりすぎて、発熱等で外部充電を受け付けない場合などは、全てのバッテリーのターミナルを外し、個々の電圧の確認をして、個々のバッテリーを予備充電させます。

▪予備充電方法

12V2A程度で1個あたり約半日～1日程度充電します。
・充電器は各自ご用意ください。ホームセンターなどで売っている単純機能の安いタイプ十分です。
・高機能タイプや全自動タイプは充電器が作動しません。
・接続の際は配線の間違いやバッテリー間のショート、感電などに十分ご注意ください。
予備充電後再度バッテリーを車両に組み付けて終了です。その後エンジンをかける、外部コンセントをつなぐなどで通常充電を行います。
バッテリーを完全放電させると、寿命が短くなる場合がありますので、ある程度の電圧まで下がったら逐次充電をするようにしてください。

◆ 冷蔵庫が動かない

この場合は4点考えられます。
① 主電源の入れ忘れ
② バッテリー電圧の低下
③ 本体の故障
④ 庫内温度が低下したので動きが止まっている

まず、バッテリーの電圧を確認してください。
次に、庫内を空けて冷えているかどうかを確認してください。
冷えていればサーモスタットが働いて運転停止していると考えられます。
（庫内に調節ダイヤルがあります）
本体の故障が確認された場合は当社工場まで連絡をください。

◆ マックスファンが動かない

この場合は通常動作と故障が分かれます。

○ 通常動作の場合、

センサーで止まっている場合があります。
温度設定で動作しているので、ある程度の温度まで来たら自動的に動き出します。

○ 故障の場合

・ファンが回らない
・サーモスタットが効かない
・蓋が開かない
・雨もれがする

○ 対処方法

・ファン用の主電源が入っているかどうか確認する。
・ファンの温度センサーの設定を確認する。
・蓋が開かない場合は、錆、ごみなどの固着、ギアの破損などが考えられます。状態をよく見てから、油をつける、掃除をするなどの対策をしましょう。
・雨漏れの場合は、コーキングの劣化、不具合、ごみが詰まっている、何らかの原因でプラスチック部分が破損しているなどが考えられます。
・屋根から状態を確認すると原因が判明する場合があります。
・これらに該当しないで動かない場合は故障の可能性があります。
・一度症状を確認して、当社工場までお問い合わせください。

◆ サブバッテリーが上がった

サブバッテリーを使用して設備を動かしているときに、電圧が低くなってしまった場合の対処方法です。
車輌に装備してある充電器やソーラーチャージコントローラーは全自動のため、バ ッテリー電圧が規定より低くなった場合、保護回路が働いて充電を行いません。
バッテリー電圧が10V 以下になった場合、通常の充電方法では充電できない場合があります。
そのため、下記の方法でバッテリー電圧を上げる必要があります。

① 架装部分の全ての電源を切ります。(メインを落として、冷蔵庫、インバーター、クーラー、など全て切ります。)
② エンジンをかけて30分～1時間程度アイドリング状態でサブバッテリー電圧が上がるまで充電をします。電圧表示は、インバーター、ソーラーチャージャーなどの各電圧計で確認してください。
アイドリングの場合、オルタネーターからそれほど大きい電流が流れないため、徐々に充電されて電圧が上がってきます。時間がたてば電圧が12V 程度まで上がります。
③ そのままエンジンをかけておいたり、エンジンを止めて外部コンセントを挿したりしてさらに充電を行います。オプションのソーラーパネルをつけている場合は、そのまま充電が始まります。(これは自動で作動します)
④ サブバッテリーを十分に充電して終了です。

アレンH　よくある質問まとめ

◆電気、バッテリーについて

Q．照明やエアコンがつかなくなりました。

A．サブバッテリーの電圧が低下している可能性があります。
走行充電又は外部電源に接続し充電してください。

Q．インバーターの使い方が分かりません。

A．インバーターとはサブバッテリーの12Vの電気を100Vに変換する機器です。
インバータースイッチをONにすることで室内のACコンセントがお使いになれます。
但し、電力消費が大きい機器には使えません。（合計1,000W以下で）

◆エアコンについて

Q．エアコンが動きません、どうしたらいいでしょうか。

A．電源が入らない（冷えない）時は

1．操作パネルの電源がONか確認

2．バッテリー電圧を確認（電圧計が12.0V以下なら要充電）

3．外部電源が使える場所での充電か走行充電（2、3時間）

◆FFヒーターについて

Q．FFヒーターが動きません。

A．燃料の残量が1/3以下だと安全の為作動しません。給油してください。

Q．FFヒーターが止まりません。

A．スイッチを切ってすぐには止まりません。3~5分くらいで止まります。

Q．起動時や途中に「ゴー」という音がします。

A．点火時の燃焼音で、正常な作動音です。

◆水まわりについて

Q．蛇口から水が出ません。

A．水道スイッチがONか確認、タンクの水残量の確認、モーターが奥まで
入っているかの確認

◆ベッドについて

Q．ベッド展開方法がわかりません。

A．車載マニュアルをご確認ください。

ﾍﾞｯﾄﾞ展開動画→